

## 2 県民の意見把握等

### 意見聴取の実施状況

実施日順に記載

	意見聴取団体	実施日
	浦和高校 生徒	令和6年3月21日
	所沢北高校 保護者	4月26日
	熊谷西高校 保護者	5月11日
	大宮高校 保護者	5月25日
	越谷北高校 保護者	6月22日

## 意見聴取で出された意見の要旨

### ア 男女共学校の保護者から出された意見の要旨

男女共学化推進に関する意見の要旨	男女別学校維持に関する意見の要旨
<b>教育の機会均等・ニーズなど</b>	
<p>今の時代の流れから考えると男女別学校は、男女共学化するべきである。</p> <p>男女という性別によって入学できない県立高校があることは疑問である。</p> <p>地域によっては、男女別学校と同じような男女共学校がないため選択肢がなくなっている。</p> <p>男女が協力してこの社会を作る理念は重要である。その教育環境を提供するために男女共学化を進めるべき。</p> <p style="text-align: right;">など</p>	<p>男女別学校、男女共学校を希望する生徒がいることから、それぞれを選択できる状況とするべきである。</p> <p>男女別学校は特色ある学校という観点から意義がある。</p> <p>埼玉県は他県と比べ高校数も多いことから、男女別学校が12校あるのは問題ない。また、地理的に男子校しかないのであれば問題だが、そういった状況ではない。</p> <p>男女別学校の志願倍率は高く男女共学化の必要はない。</p> <p>男女共学化されると、男女別学校へ行きたい生徒は私立高校へ進学することとなり、保護者負担が大きくなる。</p> <p style="text-align: right;">など</p>
<b>歴史・伝統など</b>	
<p>男女別学校の伝統や教育水準を損なわずに男女共学化を行うことは可能だと思う。男女共学化には大きな決断が必要だが、他県も参考に時間をかけ対応してほしい。</p> <p style="text-align: right;">など</p>	<p>男女共学化によって校風や学校行事等の特色が失われてしまうので、男女別学を維持するべきである。</p> <p style="text-align: right;">など</p>
<b>男女共同参画の視点に立った教育など</b>	
<p>男女共学校で異性と共に過ごすことが、異性の理解や尊重へとつながる。</p> <p>今はまだ男性優位社会であり、男性はそれが見えていない。高校3年間は大切に男性と女性が意見を対比させることが重要である。</p> <p style="text-align: right;">など</p>	<p>女子校では女子も力仕事をし、男子校では男子もマネージャーをしており、定型化された概念の撤廃は男女共学化することだけではない。</p> <p style="text-align: right;">など</p>

**男女共学化推進に関する意見の要旨**

**男女別学校維持に関する意見の要旨**

**安心など**

同性ばかりの環境より異性がいた方が楽である。 など

異性の目を気にせずに力を発揮したり伸ばしたりできる。  
男女別学校は、異性を苦手とする生徒にとって学びやすい  
環境である。 など

**法令・法規など**

教育基本法が改正され「男女の平等」などが追記され、その実現のために取組を進めるべきだと思う。 など

国立高校、私立高校に男女別学校があるのだから、県立高校を男女共学化することは飛躍している。 など

**その他**

男女別学校に入学しても人格形成上問題はない。  
高校生、中学生の意見が最も重要である。  
女子校に保育科、男子校に理数科が設置されている状況は是正すべきである。  
異性が苦手な生徒が、男女共学校で円滑に学校生活を送れるかどうかは、そのときの学校やクラスの状況による。  
男女別学校では、男女の特性を生かした教育活動を行うことができる。  
男女共学校の生徒にも何も指導しなければ、定型化された概念を身に付けた状態で社会に出ていくこととなるかもしれない。  
家庭において母親が家事をして、父親が働くという固定観念が崩されない限り、ジェンダー平等はあり得ないと思う。男子が理系、女子が文系というのもそうだ。これから先のことを考えるのであれば親の世代の考えを変えていく必要がある。など

## イ 男女別学校（浦和高等学校）の生徒から出された意見の要旨

男女共学化推進に関する意見の要旨	男女別学校維持に関する意見の要旨
<b>教育の機会均等・ニーズなど</b>	
意見なし。	<p>男女別学校、男女共学校を希望する生徒がいることから、それぞれを選択できる状況とするべきである。</p> <p>男女別学校に対し強い入学志望動機がある中学生がいることから男女別学校は維持すべきである。 など</p>
<b>歴史・伝統など</b>	
意見なし。	<p>男女共学化によって校風や学校行事等の特色が失われてしまうので、男女別学を維持すべきである。 など</p>
<b>男女共同参画の視点に立った教育など</b>	
意見なし。	<p>男女共学化と男女共同参画社会づくりの観点は別問題であり、男女共学化ではなく男女共同参画社会づくりに向けた教育を推進すべきである。</p> <p>男女別学校は、男女の役割分担に捉われずに学校生活を送ることができる。むしろ、共学校の方が男女の役割分担について細心の注意を払うべきである。</p> <p>男子校・女子校間で交流した授業や行事を設けるなど、できることはあるので、男女共学化をすぐ行う必要はない。</p> <p>調理実習や赤ちゃんの人形の入浴体験を行う等、男女共同参画に係る授業を受けており男女共学化は不要である。 など</p>

男女共学化推進に関する意見の要旨	男女別学校維持に関する意見の要旨
<b>安心など</b>	
意見なし。	異性の目を気にせずに力を発揮したり伸ばしたりできる。 など
<b>法令・法規など</b>	
意見なし。	男女別学校の存在は、女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約や法令等に違反しない。 など
<b>その他</b>	
<p>施設の改修等に多くの予算をかけてまで男女共学化をする必要はない。</p> <p>勧告には、「目指す学校像」について、男子校は「リーダー育成」等を、女子校は「地域に貢献」等を掲げている高校が多いとの指摘があるが、県内には「リーダー育成」を掲げる女子校もあり、非難すべきような差異はない。</p> <p>高校生やこれから入学してくる中学生たちの意見をしっかり聴いてほしい。</p> <p>公教育の目的は、少数派のためだけでなく、まずは多数派の意見を聴くことであると思う。</p> <p>勧告にあった管理職の男女比率については、教育委員会の人事の問題であり、直接的に男女共学化には結び付かないと考える。</p> <p>ニーズがあれば、女子校にも理数科はあってもよいし、男子校にも家庭に関する学科があってもよいと思う。</p> <p>私立高校にも税金が投入されているのであれば、私立高校も男女共学化という流れになるのではないか。</p> <p>男女差別は既に社会問題であり、数少ない男女別学校を男女共学化したところで男女差別の解消にはならない。 など</p>	